

11年ぶりの大型連休となったこのたびの「シルバーウィーク」でしたが、どのように過ごすことができたでしょうか。生徒に聞くと、「あつという間でした」「家族旅行をしました」「何もできず、家でごろごろしていました」などと様々でした。気持ちを切り替えて行事の多い2学期に臨んで欲しいものです。

さて、右の写真を解説します。休憩時間に少しでもくつろげるようにと、昨年度の高校卒業生が学校への卒業記念品として1号館の4階～6階の廊下に1脚ずつベンチを寄贈してくれました。先週、新たに3階を含めて各階2脚を追加しました。

新たなベンチが設置されてすぐにその様子を見に行ったところ、ベンチに座りきれなかった20名近い高校3年生があたかもベンチに座っているかのようなパフォーマンスを即興で披露。随分とノリのいい生徒たちに拍手喝采でした。「お見事!」。



「一人の人間として大切なこと」

9月18日(金)午前中、広島市立五日市観音中学校2年生の58名が本校へ「学校見学」ということで来校しました。協創ホールで高校教頭から本校についての紹介をしたのち、先輩の高校1年生数名が本校の紹介と先輩からのアドバイスをしてくれました。

女子生徒からのメッセージは、とても心に沁み入る内容でした。その一部を披露いたします。

「みなさん、こんにちは。高校1年の廣川亜瑚です。みなさんは今、中学校生活を送っていますが、高校に対してどんなイメージをもっていますか」と問いかけ、高校の持つイメージを以下の4つに定義づけしました。

- ①自分で選んで進む場所
- ②自分で考えて行動することが増える場所
- ③新しいことに挑戦できる場所
- ④将来について考える場所

そして、「中学校と高校の違いをまとめました」と続け、次のように話しました。

「中学校のときは、先生に言われて行動することが多かったり、クラス全員が同じ授業を受けたりしますよね。また、小学校からずっと同じ顔触れという人も多いと思います。それが、高校になるとガラッと変わります。まず、“自分で考えて行動する場面”が一気に増えます。さらに、自分の進路に合わせた『コース』や『選択科目』があるので、授業によって受ける教室やメンバーが変わるんです。何より、いろんな地域から人が集まるので、“色々な人に出会える”のが最大の魅力です。そして、自由が増える分、自分の責任も増える、それが高校です。

“高校は自由が増える”と言いましたが、じゃあ何をしてもいいのかというと、そうではありません。中学でも高校でも、一人の人間として、これだけは絶対に大

切だと実感したことが3つあります。

1つ目は“身だしなみ”。制服を正しく着る。髪型や服装を整える。清潔感を意識する。これは周りの人を不快にさせないためのマナーです。

2つ目は“挨拶”。元気に挨拶をすること。挨拶から、良い人間関係が生まれます。

3つ目は“規則正しい生活習慣”。朝食をとる。遅刻をしない。体調管理をする。当たり前のことなのですが、これができる人が勉強でも部活でも最後に力を発揮できます。

みなさんは、今、これらが出来ていますか？ できているかな？って思う人は手を挙げてみてください（多くの中学生が手を挙げました）。

というメッセージでした。中学校と高校の違いを伝える中で、「一人の人間として大切なこと」としての3つを示してくれました。実に説得力のある素晴らしい問いかけでした。廣川さんは、中学校を卒業し、本校に入学して約半年、環境や生活スタイルが変わっていく中で失ってはならないもの、将来に向けて一人の人間として大切に育まなくてはならないことを実感しながら過ごしていたのでしょう。

「一人の人間として大切なこと」の3つを当たり前のこととして日常を過ごすことは非常に意味あることです。また、その日常を当たり前に過ごせることは、親や友だちなど、周囲の人たちのお陰であることも忘れてはなりません。すなわち、周囲の人たちへの感謝の気持ちを忘れてはならないのです。やがてその想いは自分に返ってくるような気がします。人のために、実は自分のために、と繋がるのです。

本校の建学の精神「報恩感謝・実践」は、こうしたことを内包している言葉であると言えます。